

セグメント別概況

売上高は益新事業を除く全セグメントで増加し、特に国内SMO事業、Global Research事業では前年同期から50%超の大幅増を達成しました。利益面では国内CRO事業における業務効率化、Global Research事業における黒字化が大いに寄与しています。

国内CRO事業

国内CRO事業は、売上高13,443百万円(前年同期比8.3%増)、営業利益3,631百万円(同26.9%増)となりました。モニタリング業務における案件の前倒しや稼働率の向上が増収につながりました。利益面ではモニタリング・データマネジメント業務における原価管理の徹底、リソースの最適化などの施策が成果をあげています。

国内SMO事業

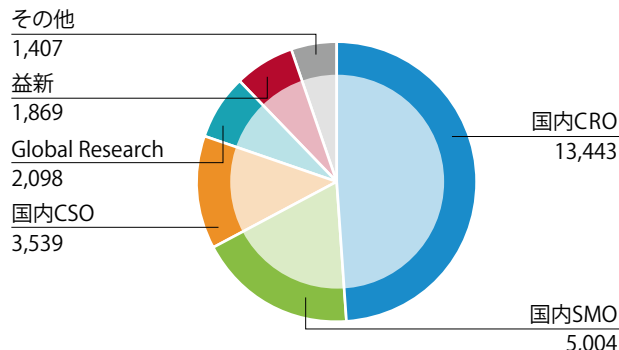
国内SMO事業は、売上高5,004百万円(前年同期比60.0%増)、営業利益419百万円(同32.3%増)となりました。2016年1月から株式会社総合臨床ホールディングスが連結対象となり、提携医療機関の拡大など経営統合によるシナジー効果が業績に表れています。

国内CSO事業

国内CSO事業は売上高3,539百万円(前年同期比4.9%増)、営業利益124百万円(同40.4%減)となりました。国内でCMR(契約MR:医療情報担当者)が低迷するなか、医療機器・PMS分野への移行などにより利益率の改善に努めています。

セグメント別売上高 (第26期 第2四半期)

(単位:百万円)



※セグメント情報は調整額を含んでおりません。

Global Research事業

Global Research事業は、売上高2,098百万円(前年同期比75.3%増)、営業利益219百万円(前年同期は149百万円の損失)と、大幅な増収増益を果たしました。大型プロジェクトの順調な進捗や新規プロジェクトの受注による売上増と、それに伴う損益改善が主な要因です。

益新事業

益新事業は売上高1,869百万円(前年同期比7.1%減)、営業損失74百万円(前年同期は122百万円の損失)となりました。中国の景気減速の影響を受け医療機器関連商品の販売が減少しましたが、原価管理の徹底により営業損失は小さく抑えることができました。

通期の見通し

通期業績は、売上高52,500百万円、営業利益5,225百万円、経常利益5,500百万円、親会社株主に帰属する当期純利益3,000百万円を計画しています。上期が好調に推移し

たこと、一方で下期に専門力強化に向けた人材投資を予定していることなどを勘案した結果、前回の業績予想数値に対して上方修正しました。